

平成26年10月30日

第127号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



森林保全整備事業 入山国有林（福島県矢祭町）
（高性能林業機械による間伐）
（撮影者：棚倉森林管理署）

関東局初となる民有林と連携した林産物の安定供給システムが始まる

森林整備部 資源活用課

私と国有林

「雨巻山登山道が国から益子町へ貸付され」

益子いくべ会 会長 阿久津忠男



9月30日付けで、須藤徳之局長が退任し、10月1日付けで新局長として志田孝一氏が就任しました。
 須藤局長は、水産庁資源管理部長から平成25年7月に当局長に就任し、在任期間は1年3ヶ月間でした。



志田孝一
 関東森林管理局長

志田新局長から10月2日(木)に次のような訓示がありました。
 「10月1日付けで関東森林管理局長を拝命いたしました志田孝一です。おそらく、今日お集まりいただいた皆さんは、ほぼ全員が初対面だと思います。」

私は、農林水産省に昭和57年に入省し、最初の配属が林野庁林政課であり、国有林関係の仕事をするのは、実にそれ以来約30年ぶりということ

になります。

当時、国有林特別会計というのは、国鉄、食糧管理特別会計と並んで、赤字が大きな社会問題となっていました。そうした中で林政審議会の場において、どうやって国有林改革を進めるのかということで大変議論されておりました。

この30年という大きなブランクがありますので、私が入庁時の国有林のイメージと現在の国有林では随分大きな変動をしているのではないかと思います。少しでも多くの現場を見させていただき、また皆さん方のお話を聞かせていただきながら、私なりに正確に現状を把握し、目指すべき方向について考えていきたいと考えています。

国有林野をめぐる状況は大きく変わったと思いますが、国有林の皆さん方がこんなに一生懸命に、大変いい仕事をしているにもかかわらず、そのことについて一般の方に中々知られていないという点はあまり変わっていないのではないかと思います。それは、林野だけでなく農林水産省全体に伝えることで、中々、職員が一般の方まで知られていないことです。

最近では農業のもつ多面的機能はかなり認知されるようになってきましたが、それ以上に日本の国土を支える森林を守っている皆さん方が、本当にいい仕事をしているということ

とが、知れ渡っていないと感じています。

外部の方と接触する機会をできるだけ多く持つて、そうした中で国有林の皆さんがこんなにいい仕事をしているということをなんとか広めていきたいと考えています。

本当に久しぶりの国有林で、分からないことが多々あると思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。以上で、私の就任にあたっての挨拶とさせていただきます」との着任の挨拶がありました。



着任の挨拶をする志田新局長

関東森林管理局長

志田 孝一
しだ こういち

(略歴)

- 出身 愛知県
- 昭和57・4 農林水産省入省
- 平成9・10 東海農政局岐阜統計情報事務所長
- 平成11・8 科学技術庁科学技術政策局政策課資源室長
- 平成14・4 農村振興局地域振興課中山間地域振興室長
- 平成15・4 公害等調整委員会事務局審査官
- 平成17・8 生産局畜産部牛乳乳製品課長
- 平成18・8 独立行政法人農畜産業振興機構総務部長
- 平成19・6 大臣官房付
- 平成20・1 農林水産研修所長
- 平成21・1 北陸農政局次長
- 平成22・7 独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター総括審議役
- 平成24・12 近畿農政局次長
- 平成26・10 関東森林管理局長

関東局初となる民有林と連携した 林産物の安定供給システムが始まる

森林整備部資源活用課

10月2日に関東森林管理局で初めてとなる「民国連携した林産物の安定供給システム協定」を締結しました。

この協定は、烏川流域森林組合、赤城南麓森林組合及び鐮川東部森林組合と群馬森林管理署の四者が連携し、原木の安定供給体制づくりを推進することを目的として、間伐箇所から生産されるスギ短尺材と低質材の素材を栃木県矢板市の（株）トーセンに供給するものです。

販売予定数量は、民有林から400㎡、群馬森林管理署管内の国有林から2600㎡の併せて3000㎡を今年度内に販売する予定となっています。

それぞれの森林組合では従来、3m、4mの一般材を主に生産し、曲がりの大きな材や腐れがある低品質な材（低質材）は林内に残されてきました。また、曲がりを除くために採材した2m材は集成材の原料であるラミナに、低質材は、栃木県日光市に建設を予定している木質バイオマス発電の燃料とする利用目的から購入希望

があり生産販売が可能となったものです。

各森林組合では低質材の生産販売は初めての試みとなることから、群馬森林管理署では国有林での生産方法や層積検知の手法などの情報交換を、順次行うこととしています。

今回、民有林材と国有林材が数量をまとめて出荷することで、民有林においてこれまで需要がなかった素材の安定取引や有利販売が可能となり、民有林の森林整備の促進が期待されることから、関東森林管理局では、今後、各森林管理署等の森林共



赤城南麓森林組合職員へ
国有林の検知手法を説明

同施業団地の民有林などと協調した安定供給システム販売をさらに進めることとしています。

【国有林材の安定供給システム販売とは】

需要・販路拡大が必要な間伐材等について、国が製材工場や合板工場等と協定を締結し、それに基づき国有林材の素材や立木を低コストで安定的・計画的に供給する販売方法。

【民有林と連携した林産物の安定供給システムとは】

民有林と国有林が連携して原木の安定供給体制づくりを進めるとともに、民有林における施業の集約化、未利用間伐材等の有効利用等の取組の促進に資するため、一定の要件を満たす民有林所有者等と協定を締結し、林産物の販売を当該民有林所有



販路がなく林内に残されてきた民有林材

者等の林産物の販売と国有林の林産物の販売を連携して行うもの。



販売を待つ民有林から出材された2m材

- (*1) 集成材ラミナ
ラミナ (Laminar) とは、集成材を構成する挽き板あるいは小角材のピース。
- (*2) 木質バイオマス発電
木質バイオマス発電とは、木質バイオマス(*3)を燃やしてタービンを回して発電する仕組みをいう。
- (*3) 木質バイオマスとは
「木質バイオマス」とは、生物資源 (Bio) の量 (mass) を表す言葉であり、「再生可能な、生物由来の有機物資源（化石燃料は除く）」のことを呼び、そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」という。

平成26年度森林総合監理士育成研修について

森林整備部技術普及課

平成23年度から昨年度までの3年間実施して参りました「准フォレスト」研修について、森林総合監理士の資格制度が発足したことから、当該研修が廃止され、今年度からは、

将来、森林総合監理士の候補となる若手技術者を中心とした、知識・技術のレベルアップを図るための「技術者育成研修」が新たにスタートしました。

この研修は、准フォレスト研修に準じた内容で、座学中心の中央研修と現地実習を主に実施するブロック研修とに分かれており、各森林管理局は、この「ブロック研修」と准フォレスト等の更なるスキルアップ

のための「実践研修」の2つを担当することとなっております。

関東森林管理局利根沼田署研修室では、ブロック研修を8月26～29日に、実践研修を9月24～26日に、それぞれ実施しました。

この研修は、各森林管理局毎に独自の研修テーマを定めることとなっている実践研修について御紹介致します。

視した育成複層林等に誘導していくこととされています。

つまり、拡大造林等したものの不成績となっている人工林等については、広葉樹等を誘導し林地保全を図っていくこととなるわけであり、その際には、天然更新等の技術が重要になると考えられます。

そこで関東森林管理局における実践研修ではその点に注目し、「人工林広葉樹林化誘導技術の確立に向けて」を研修テーマとして取り上げました。

これは他の6局が「一貫作業システム」や「路網と作業システム」等のこれまでに既に取り上げられているテーマである中、唯一の「森づくりの構想」にかかるテーマであり、遠くは島根県職員の方がはるばる参加されるなど全国から注目を集めるものとなっております。

当該研修の期間は3日間となっております

おり、(独)森林総合研究所 森林植生研究領域 佐藤チーム長を講師としてお招きし、同所の「広葉樹林化研究プロジェクト」の成果を中心とした講義で広葉樹林化が可能な条件等を学び、現地実習では、人為的に作設されたギャップのある小班において、そのギャップの更新状況等をヒントとし、当該小班の今後の広葉樹林化に向けた施業方針を班毎に検討しました。

最終日は、各班毎に検討した施業方針等を発表してディスカッションした後、佐藤講師からの確かな講評をいただき、全員で人工林広葉樹林化誘導技術に関する知識を共有して修了となりました。

どの受講生も満足した笑顔で帰途につかれたのが印象に残るクオリティの高い研修となったことで、この新規の研修に対する事務局の、産みの苦しみも大いに報われました。

また、視察に来られた林野庁担当者からも、「初めての研修という印象は受けないほど、テーマの知識・技術を十分に補強する研修であった」との言葉をいただきました。

今後もこの研修が、民有林支援にかかる人材育成の一環としてより充実し、国有林職員の更なるスキルアップに少しでも貢献出来るように、PDCAサイクルを廻してより良い研修とした参ります。



【現地実習】



【グループワーク】



【発表・ディスカッション】



【講師から成果に対する講評】



高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという都民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。今回は、夏から秋にかけて行った活動の中からいくつかを紹介します。

1 森林カレッジⅡ

今年度2回目の森林カレッジⅡは、受講生32名の参加を得て7月26日に実施しました。講師には、東京農業大学教授の宮林茂幸先生を招いて「森に学ぶ・森づくり・ことづくり・人づくり」についてお話をいただきました。座学では、森林及び林業の状況、先生が実際に活動されている



森林カレッジの様子

市民参加による地域づくり、人づくりなどの内容で、「専門的な内容が多かったが、大変面白く身近な話に感じられた」「先生の活動に参加してみたい」など、大変好評でした。また、実習では、鎌研ぎを行った後、作業場所へ移動し、防火線の下草刈りを体験。「達成感があり充実した日でした」「身をもって大変な仕事を体験した」「もっと作業をやりたい」などの感想がよせられました。

2 林業体験

東京大学・環境サークル「環境三四郎」(環境問題の解決を目指して活動する東京大学の学生・卒業生を中心とする団体。)の一次産業振興プロジェクトメンバー4名が当センターを訪れ、農林業を中心とした一次産業と環境問題とを学ぶためのイベントを企画するため、間伐作業、搬出作業、丸太切りや森林観察を8



大学生の搬出作業体験の様子



小学生を対象とした森林観察の様子

月11日に体験しました。また、拓殖大学政経学部経済学科「関ゼミナール」(環境政策研究)の学生等16名は、健全な森林の維持管理にいかに関与が必要かを体験したいとし、森林・林業講座、間伐作業、搬出作業や森林観察を9月10日に体験しました。学生たちは、林内歩行に慣れない足取りながらも懸命に体験し、「貴重な体験ができてよかった」「来年もお願いします」などと好評をいただいています。

3 森林教室

9月の森林教室は、16日に北区立滝野川小105名、18日に八王子市立第三小95名、19日に同市立片倉台小53名の依頼があり、アニメとパワーポイントで地球温暖化防止などの様々な森林の働きなどを子どもたちに感じさせ、森林散策や丸太切りなどの体験を通して森林・林業について学習しました。森林教室は今後10月以降にピークを迎えます。なお、森林教室を体験し生徒の中から、森林の大切さや自然環境の保全などに目覚め、小学校では環境委員長として活動している生徒、中高一貫校で「森林・林業体験」を卒業論文のテーマにした生徒なども出ています。

今月の表紙

「高性能林業機械による間伐」

写真は、福島県矢祭町の入山国有林で行われている森林環境保全整備事業です。

現地は優良なスギ材を産出する八溝山系の福島県側に位置し、人工林を伐採し高性能林業機械(プロセッサ、ハーベスター、フォワーダー等)の連携による効率的な作業により間伐材の搬出が行われ、その後、市場等に運ばれています。

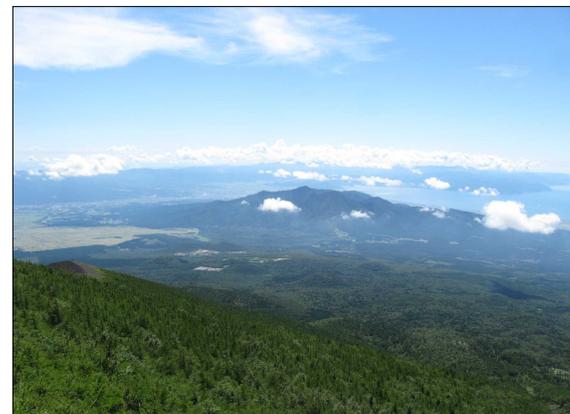


森づくりの最前線

静岡森林管理署 沼津森林事務所 首席森林官 半场 修



愛鷹山(あしたかやま)と富士山



富士宮口6合目からの愛鷹山

沼津森林事務所は、東西南の三方を駿河湾に面し、北に富士山を望めるという風光明媚な、静岡県東部沼津市に所在し、沼津市、御殿場市、裾野市、駿東郡長泉町、及び小山町の3市2町の国有林8020ha及び官行造林地115haを管理しています。

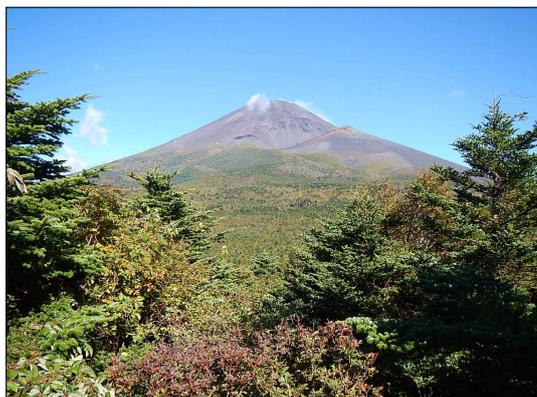
管内は、富士山、愛鷹山、大洞山、明神峠及び金時山の五つの地区に大別でき、富士山地区は標高1000haから3300ha(八合目)の東斜面、それ以外の地区は標高400haから600haより上方の山頂に至る斜面を占めており、一般的に比較的高高度な区域です。

く堆積しており、降雨のたび洗掘・崩壊を繰り返しています。

愛鷹山地区は、基岩の上に火山灰が積もり、降雨等により水を含むと泥化します。

また、金時山地区は、箱根旧外輪山の側火山山として誕生したもので、急峻で脆弱な地形である等各地区の創世記がそれぞれ違い、地形・地質も異なっているため、画一的でなく各地区にあった施業をすることが重要です。

金時山地区の稜線部は金時山風景林として維持管理されており、西に富士山、東に箱根・芦ノ湖とくわめて眺望に優れた区域で、古くから絶好のハイキングコースとして知られています。



水ヶ塚腰切塚からの富士山頂

愛鷹山地区についても都市近郊の山岳として、登山愛好家の縦走や、一般市民の手頃な登山コースがあり、その自然とともに親しまれています。

また、国有林直近までゴルフ場が作られ、明神峠地区の直下には富士スピードウェイもある等比較的身近な森林であり、世界文化遺産の富士山はもとより、各地区とも一年を通じて多数の入山者も訪れています。

さらに、各種保安林、国立公園、史跡名勝及び静岡県環境保全地域等の法令による数多くの規制を受けているため、施業に対する制限と都市近郊林としての景観等を配慮した森林の取り扱い及び利用が必要です。

一方で、当管内においてもシカ・クマによる剥皮等の被害は深刻な問題であり、以前よりかなりの被害はありましたが、近年更に生息域・剥皮等の規模は広がっています。有害鳥獣捕獲等とあわせ、人が山へ気軽に入れる環境、獣たちが普通に生息する環境を取り戻すことも必要かと思えます。その反面ゴミ等の不法投棄、盗掘等人間側のモラルの低下もあり難しい問題ですが、地元及び近隣の関係機関等と検討しなければならぬと考えています。

今後も、森林の持つ公益的機能の確保と木材生産機能の向上の調和を図りつつ、事業の実行を通じて地域社会の振興に寄与することを基本として、各種事業等の改善を図りながら創意工夫し、国有林の管理経営を継続して行きたいと考えています。



金時山頂からの富士山

管内のいちおしスポット



やまもとふどうそん 山本不動尊

■ 棚倉森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tanagura/index.html>
 〒963-6131 福島県東白川郡棚倉町大字棚倉字館ヶ丘73-2
 TEL:0247(33)3111(代表) FAX:0247(33)3113

棚倉森林管理署管内の福島県東白川郡棚倉町の南に位置する北山本地区には、豊かな自然に囲まれた風光明媚な山本公園（山本不動尊）があります。ここは、国有林野のレクリエーションの森としても広く一般に利用されています。



【山本不動尊 護摩殿(秋)】



【山本不動尊 護摩壇】

山本公園を中心とした南北約5kmの溪谷は奥久慈県立自然公園に指定されており、アカマツ林と広葉樹林が広がり、春にはシャクナゲ（4月中～下旬）、岩ツツジなどが咲き誇り、夏になると避暑地として、また、秋にはもみじ狩りなど年間を通じて豊かな自然を満喫できる自然豊かな公園です。

公園内にはキャンプ場（4月～11月まで開設）があり、バンガローや水洗トイレも整備され、毎年県内外から、森林浴、キャンプやバーベキューなどに多くの方が訪れ利用されています。



【ひびくらの滝】

公園内を流れる清流（宮川）は川底が見えるほどの透明度で、ヤマメやニジマスの泳ぐ姿を目にすることができます。さらに川沿いの遊歩道を奥に進むと「ひびくらの滝」があり、美しい自然の中で清流と木々のコントラストを目の当たりにすることができます。

この公園内の樹齢100年を超える杉並木を抜けたところに東北36不動尊第35番札所の山本不動尊が鎮座しています。

山本不動尊は大

同2年(807年)、弘法大師が東北行脚の途中に護摩壇を築き、八溝山系に住む悪鬼を調伏祈願したのが始まりとされ、以降この地方では安堵な暮らしができるようになったといわれています。

境内の護摩殿、鐘桜堂を通り過ぎ、清流に架かる橋を渡り、急な石段(130段)を登りつめたところに、巨岩の洞窟のもとに、弘法大師尊像が安置されており神秘的な雰囲気を感じさせています。最近では県内でも有数のパワースポットとして知られ、参拝客で賑わっています。

歴史と自然が楽しめる棚倉町の山本公園(山本不動尊)をぜひ訪れてみてください。

(棚倉森林管理署 広報広聴連絡官 入澤和彦)
 (写真等提供 棚倉町役場)



発行所 関東森林管理局
 編集 総務課
 FAX (027) 230-1393
 TEL (027) 210-1358